

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100376		
法人名	社会福祉法人 寿幸会		
事業所名	グループホームほたるの里		
所在地	山口県萩市大字須佐1378-1		
自己評価作成日	平成27年2月5日	評価結果市町受理日	平成27年6月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 食事は毎食職員が調理している、食材は毎日近くのスーパーに買い物に行き、また道の駅等で新鮮な野菜等を購入している。ご利用者の意見を聞き献立に取り組んでいる。② 午前中のレクはラジオ体操、簡単なストレッチ運動を毎日行い、身体機能の低下を予防しその後はご利用者の意見を聞き外出やレクリエーションを行い、活性化を図っています。③ 併設の特養や支援ハウス寿と一緒に行事に参加し交流を図っています④ 月2回、1泊2日平均で自宅に外泊され、家族と過ごされている利用者がおられる。⑤ 利用者のそばに寄り添い家庭的な雰囲気を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緊急時に備えての応急手当や初期対応が身につくよう実技研修を行うことを目標として取り組んでおられ、法人全体での消防署の協力を得ての救命講習に参加されている他、年2回の内部研修で緊急時対応の研修の実施や昼休みの時間を利用しての誤嚥の対応や意識障害、転倒などの実技練習を繰り返し行われることで、全職員が実践力を身につけられているなど、前回の外部評価結果を活かしておられます。利用者の好みを聞かれ、差し入れの野菜や採ってきた山菜を利用して、三食とも事業所で食事づくりをしておられ、利用者は、野菜の下ごしらえや味見、テーブル拭き、下膳など、一人ひとりができることを職員と一緒にしておられます。利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じ物を食べながら楽しく会話をしておられます。職員間のチームワークが良く、利用者の人格の尊厳を大切にされ、一人ひとりの関わりを優先するという配慮をしておられ、利用者がいきいきとした日々を過ごせるように支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、事務所、食堂の掲示版に掲示し、いつでも見られ、理念を把握しサービスにつなげる様になっている。又会議の時理念の内容を確認しサービスにつなげる様にしている。	法人の理念に基づいて、利用者がその人らしく生きがいをもって、家庭的な雰囲気の中で暮らすことを介護目標とし、グループホーム会議で確認して共有し、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が行う地域の行事に参加し交流し、又利用者の馴染みのお話ボランティアや、中学生の清掃ボランティアが来られ交流している。地域で行われる祭りにも参加している。又年2回広報誌を配布している。	地域行事の「ふるさと祭り」や「須佐焼き祭り」、「田万川道の駅まつり」に利用者と一緒に出かけ、地域の人と交流している。法人の行事のお茶会や法話に地域の人の参加があり、利用者も参加して交流している。年2回、法人の広報誌を地域に配布している。保育園児や小学生、中学生(清掃ボランティア)との交流がある他、ボランティア(メイクマッサージ、話し相手)の来訪がある。近くの店での買い物時に地域の人と挨拶を交わしたり、図書館に出かけて交流している他、野菜や果物の差し入れがあるなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンメイトに登録している、要請があれば行う。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を職員に配布し記入してもらい、会議で話し合い、内容を再確認し、改善に取り組んでいる。具体的な改善では緊急時での対応は休憩時間やレクの時間を利用している。	管理者が評価の意義について職員に説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布し、記入してもらい、グループホーム会議で話し合い、管理者がまとめている。職員は自己評価を通して支援内容の振り返りと捉えている。前回の評価結果を受けて、思いや意向の把握や緊急時の応急手当や初期対応の実技研修など、評価を活かして、具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度開催している。25年度は7月に豪雨災害後話し合いで行政より現地に来らし水路周辺の環境が整えられ、側溝が設置された。又家族に送る毎月のお便りでの意見を取り入れている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、行事報告、活動報告、サービス状況、ヒヤリハット・事故報告、外部評価結果等について報告し、話し合いをしている。災害についての話し合いの中で、事業所の裏山の土砂災害の恐れがある箇所を、水の流れを良くしてはという意見があり、側溝工事につなげているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヵ月に1度、地域交流会で地域包括支援センターや地域の福祉施設、保健師等で構成され意見や情報提供を行っている。	市担当課とは、法人を通して情報交換をしているなど協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に相談や情報交換をしている他、地域交流会でも情報交換をして連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人での研修で身体拘束について参加している。スピーチロックにもならない様気をつけながらケアをしている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。日中は自由に出入りは出来る。	法人研修で学び、職員は理解して、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をせず、外出したい利用者とは一緒に出かけている。スピーチロックについて事例検討している他、管理者が気づいた時には指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修に参加している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修に参加している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時契約書に記載してる内容を説明し、家族に理解してもらい、疑問点については解りやすく説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や担当者、外部機関第三者委員会を明示し、苦情処理の手続きを掲示している、家族会や面会時に家族からの意見や相談を聞き入れ対応している。	相談、苦情の受付体制や第三者委員、処理手続きについて、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や年2回の家族会、面会時、事業所だより送付時、電話などで家族から意見や要望を聞く機会を設けている。家族から、運営推進会議は何をするのか内容が知りたいという要望があり、事業所だよりで知らせている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や日々の業務の中で意見があれば発言してもらい業務内容の改善やサービスに反映している。朝の清掃時毎日ガラス、ドア、壁、椅子、等を消毒拭きを新しく業務に取り入れた。	月1回のグループホーム会議や朝夕の申し送り時等で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で聞いている。昼の休憩時間についての意見があり、業務の流れを明確にし、休憩時間を確保しているなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	実績考課表を作成しその評価に基づいて賞与、昇給、昇格等、適正に図り職員の勤務意欲向上を図る。又年2回健康診断を行い、法人が一部負担している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月1回の法人の研修の参加している、外部研修は可能な限り職員全員が参加できるようにしている。研修報告はグループホーム会議で復命している。個人研修の参加費用や介護支援専門員の研修費用は法人が負担している。	外部研修の情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし、資料は閲覧できるようにしている。月1回の法人研修(身体拘束、高齢者虐待、AEDの使用訓練、接遇など)に参加し、資料は回覧している。内部研修は、認知症についての研修を毎月実施している。山口県宅老所・グループホーム協会のブロック研修会に参加している。新人職員は先輩職員の指導を受け、働きながら学べる様に支援している他、資格取得の支援もしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修に参加し他のグループホームとの交流や見学を行った。近隣のグループホームの運営推進会議に出席に交流を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族等のヒアリングや入所前の数日間の入所体験等で施設の生活環境を確認してもらい、悩みや要望に応えられるよう取り組んでいる。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、施設利用に基づく規約を充分説明し理解を得ている。本人と家族からの悩みや要望事項があれば確認し、施設内で対応できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から現状のサービス利用の状況を確認し、本人の必要としているサービスを見極めて対応している。又3か月に1回サービスの見直しや新たなサービスの導入検討を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活上個々に応じた生きがいや、生活感、楽しみを職員と共に感じて貰えるようお手伝いをして頂いている。(例)洗濯物干し・畳み、テーブル・御膳拭き、畑仕事、買い物等		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のほたる便りで一人一人の近況をお知らせしている。又皿、面会時に家族よりの意見、希望、要望を把握して、本人からの要望事項等があれば家族に連絡し、反映出来るよう努めている。外泊される場合は施設での様子を伝え、戻れた時は在宅での様子を聞いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人の環境資源を大切にして、住み慣れた町や、地域内の名所、旧跡をドライブしたり、地域での行事へ参加したりしながら知り合いの方々との交流を図っている。	親戚の人や知人、友人の来訪がある他、地元の敬老会への出席、馴染みの美容院の利用、自宅周辺のドライブ、墓参り、地元神社の参拝などの支援をしている。家族の協力を得ての外出、外泊、外食、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクや行事は基本的には全員参加で対応している。利用者同士の親睦や、信頼、友和、協調が図れる雰囲気づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後施設内であれば、行事を一緒に行っている。本人や家族からの相談等があれば、いつでも対応出来るように支援体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中やドライブ時等に思いを引き出し、馴染みのある場所へ行ったり、買い物を楽しんでもらっている。ご本人様の意向をなるべく実現できる様、日々、努めています。	入居時アセスメント(フェイスシート、ケアチェック表)やケアマネ情報提供書を活用している他、日常の関わりの中で聞きとった利用者の言葉や表情などからの思いを連絡ノートに記録し、ケース記録にまとめて思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に情報提供書やご本人様に関わる家族やケアマネ等により内容を把握しつつ日々の生活での関わりの中から本人を知る努力をしています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせ、その場、その時の体調に合わせ無理なく過ごして貰い、できる限りの自立支援をサポートしています。また、日々の心身状態の把握に努めています。(朝のバイタルチェック・毎食事量・排泄状況・睡眠状況等を記入)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ホーム会議の中でカンファレンスを開催し家族へは来苑時に希望を取り入れ、本人へは事前に確認し、反映しています。必要であれば看護、Dr、栄養士に相談をもうけ担当者がプランを作成し職員が共有できるように別紙ファイルへ全員分のプランを記載し常に確認出来る様にしています。	本人や家族、主治医、看護師、栄養士など関係者の意見を参考にして、管理者と計画作成担当者が中心となってカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。家族の要望や利用者の状態の変化に応じて、現状に即した新しい介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を日誌に記入、特変があれば引き継ぎや別ノートへ記載し、職員全員が把握できる様にしています。また、状態変化がみられれば担当者で相談しプランの見直しを行っています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	移動散髪店は2ヵ月に1回利用。希望があれば地域の理髪店を利用しています。また、本人や家族の希望に添えるように外出や外泊支援を行っています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回荻消防本部より避難訓練と年1回AED講習実施と助言。毎月1回、独自の避難訓練を実施しています。また、希望者があれば地域の理髪店を利用。毎週水曜日に移動図書館が来苑し紙芝居やビデオの貸し出しを利用し、楽しんで貰っています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(須佐クリニック)に月2回で定期受診の際付き添い介助を実施。他の受診機関での受診の際、家族の対応が困難な場合にはその状況により、送迎付き添い等対応している。	本人や家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の定期受診があり、バイタル等の情報は口頭で伝えている。他科受診は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は電話等で聞き、連絡ノートやケース記録に記録して共有している。緊急時には、協力医療機関やかかりつけ医に連絡を取り、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の受診時、また何か変化があった場合は、かかりつけ医の看護師に常に情報提供を行っている。また緊急の際の連絡網も確立しており、緊急時には、医師看護師に常に連絡ができる様な体制を取っている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族や、入院先の相談員とも連絡を取り合い、情報交換を行っている。また退院の際は事前に情報提供書の確認を行っている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する設備等が整っておらず、十分な介護が行えない為、その際は家族に伝え、相談、話し合いにより適切な医療介護を受けられる場所への支援を行っている。	事業所でできる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医等の関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有し、支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故マニュアルの作成と当施設で実施される、研修や委員会に参加し、事故防止の意識付けを行っている。また発生時には、報告書を作成し、予防改善策を話し合い、以降の再発防止に努めている	ヒヤリハット、事故報告書にその場にいた職員で対応策を記録し、朝夕の申し送り時に伝え、連絡ノートに記録して共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署の協力を得ての法人全体の救急救命講習を受講している他、内部研修ではマニュアルに基づいて緊急時の対応に取り組んでいる。昼休みにバイタル、誤嚥、転倒などの訓練を実施して、職員は実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回、法人全体で通報訓練、避難訓練、消火訓練の実施。また毎月一回日中や夜間を想定した避難訓練(火災、水害、地震など)をおこなっている。災害マニュアルも年一回確認を行っている	年2回法人全体で日中を想定して火災時の通報、避難訓練を実施し、地域の人や消防団の協力を得ている。月1回事業所独自の昼夜想定災害時の避難誘導、通報訓練、役割分担などの訓練を実施している。法人で消防団員や民生委員との連携を築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーに配慮し傷つけないような言葉使いや対応に気をつけている。例えばトイレに行く時は「ちょっと用事があるんだけど」と言う様にしている。	法人研修で学び、職員は理解して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに注意し、守秘義務の徹底について理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者に問いかけ、利用者の思いをくみとり自己決定を支援している。例えば着替えの服とか入浴、外出他。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中に行われる、レクや行事では声掛けを行い一緒になって行っているが強制ではなく、本人の意思を確認している。休みたい利用者は居室で休まれている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は移動理髪店で2ヶ月に1度行っている。爪の長い人は確認し職員が切り清潔に努めている。女性利用者の方はお化粧をされていらっしゃる方もいます。又パーマや毛染めを希望されれば近くの美容院に行かれている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度はグループホームで調理し食材も毎日買い物している。献立は利用者の意見を反映している。食事各テーブルに職員が付き家族的な雰囲気ですべてを食している。テーブル拭きやお茶配り、食事の配膳等を手伝われる。	利用者の好みを聞き、差し入れの野菜や採ってきた山菜などを利用して、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえや味見、テーブル拭き、下膳などを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲んで、同じものを食べながら楽しく会話をしている。季節の行事食、おやつづくり(ホットケーキ、クリスマスケーキなど)、年5回程度の外出などの他、家族の協力を得ての外出などで食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量のチェックや水分補給を行い栄養バランスがとれているかを確認している。又、定期的に栄養検査を行い不足があれば栄養士と相談し補充食品を補給している。水分摂取は1日1500cc位飲まれる様に支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った口腔ケアを行い、お茶でうがいを行っている。入れ歯でポリデントを使用されている方の援助も行っている。又口腔内に異常があれば歯科受診の援助をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	誘導が必要な人は定時に誘導してます、一人でトイレに行かれ部分介助が必要な人は困難な部分の介助を行っている。(Dパンツの交換、衣服の上げ下げ等)	個人記録で排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態を把握し又飲食物の摂取量の把握、水分摂取、運動等で便秘を予防している。頑固な便秘症の人は受診し便秘薬を処方し排便の様子を見て服用している。又本人希望でクマ笹茶を煎じて飲用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日毎に入浴を行っているが個人の希望や状況に応じて入浴時間等を配慮し入浴支援を行っている。毎日バスクリンを使用しているが、季節に応じ菖蒲湯、ヨモギ湯、ユズ風呂を行い、入浴を楽しんでいる。	入浴は、14時から16時30分の間可能で、利用者の体調や希望にそって毎日でも入浴できる。職員と会話をしたり、歌を歌ったり、裏山の蓬を取ってきて蓬湯にするなど入浴を楽しめるように支援している。体調に応じてシャワー浴や清拭、足浴の支援をしている。入浴したくない人には時間をずらしたり、声かけの工夫をするなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休憩時間や睡眠時間は本人の希望により休みたい時は休まれている、夜間個々の睡眠時間が異なりテレビ等の音が聞こえない様イヤホンの利用をしてもらっている。又照明も利用者に応じて点けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は個々の薬の用法や内容を把握し又定期的な受診、緊急での受診で状態に応じてその都度服薬援助を行っている。服薬時には月日、氏名、薬を声に出し確認し、服薬介助を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に見合った能力が生活で生かせる様している。洗濯物干し、テーブル拭き、洗濯物たたみ、お茶入れ等。嗜好品では晩酌の好きな人には焼酎、又缶ジュースも自由に購入されている。楽しみ事では畑仕事、野菜づくりをしている。	拭き掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、下膳、配膳、下ごしらえ、台拭き、買い物、畑仕事、山菜採り、花摘み、テレビ視聴、口腔体操、ラジオ体操、手足運動、脳トレ、本読み、雑誌や新聞を読む、ちぎり絵、ぬり絵、生け花、しめ縄づくり、法人行事(お茶会、法話)や季節の行事(節分、七夕まつり、餅つきなど)への参加、ボランティア(メイク、マッサージなど)との交流など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換などの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の行きたい場所等聞き出かけている(自宅、自宅周辺、買い物の場所)又地域のイベントや地域行事にも参加、特養と一緒に外食等を行い外出の機会を増やすよう努めている。買い物では本人の個の好みの物を購入されている。	周辺の散歩、買い物、花見(椿、梅、つつじ、菖蒲、紫陽花、ひまわり)、図書館、自宅周辺のドライブ、地域のふるさと祭り、須佐焼き祭り、田万川道の駅、奈古の道の駅、うり坊の郷、ホルンフェルス、太鼓谷神社、初詣、花火大会などに出かけている他、家族の協力を得ての外出、外泊、外食、法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っておられる方は、必要な時に好きな物を買われておられる。預けられている方には、本人のお金があると説明し、手元にはなくても安心して買い物ができる様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から、電話をかけて欲しいと希望があれば対応している。家族から電話がかかれば本人につながり、手紙が来れば渡している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スムーズに行き来が出来る様に物の配置に気をつけている。共用の空間に花を飾り、季節を感じてもらえる様にしている。廊下の温度計、湿度計をこまめに確認し、加湿器を置いて加湿、温度調節を行っている。	リビングには陽ざしが差し込んで明るく、中庭に植えてある花や野菜を見ることができ、季節を感じることができる。壁面には利用者の作品を飾っている。畳には足が投げ出せるような造りがしてあり、その上に食卓が置いてある。通路付近に椅子が数個置いてあり、ゆっくりくつろぐことができるように工夫しており、利用者の居場所づくりをしている。台所からは調理をする音や匂いがして、生活感がある。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にそれぞれ椅子やソファを置いて、畳みの場所では横になって過ごせたり好きな場所で話をされたりテレビを見て過ごされておられる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今までの生活の中で使っておられた家具やテレビ、小物を置かれくつろいでおられる。必要な物は、その都度、家族が持って来られたり、職員が希望を聞いて用意している。	ベッド、鏡台、衣裳ケース、テレビ、タンス、椅子、時計、ぬいぐるみなどを持ち込み、家族の写真等を飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、浴槽に手すりを設置して、利用者の自立動作に応じて、生活出来るようにしている。玄関にソファを設置し、靴の履き替えの時等、安全に行えるようにしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームほたるの里

作成日：平成 27年 6 月 18日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	・防災対策 法人全体で年2回又グループホームでも月1回は色々な災害を想定し避難訓練を実施しているが地域の方との練習は行っていません。	地域の方と一緒に避難訓練を行う。	◎非常災害連絡簿に地域住民の連絡先をつける ◎地域住民と一緒に避難訓練を行う ◎地域住民と意見交換を行う	12ヶ月
2	21	・馴染みの人や場との関係維持の支援 地域の行事に積極的に参加し馴染みの人との交流を維持していきたい。又グループホームに来て頂きたい。 又家族会の参加が40パーセント程度あり家族会の参加家族が増えるようにしたい。	地域の行事や活動があれば積極的に参加する。 家族会の参加家族が増える。	◎地域の行事や活動には参加する ◎出身地域等に出かける ◎地域の行事があれば職員も協力する ◎家族との連絡を密にし参加可能な時にする ◎利用者、家族が思い出になる家族会を1度は行う	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。